

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視 点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月27日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①「正解が一つではない問い」を重視した授業を積極的に展開することで、生徒が自ら課題を発見し、解決する力や思考力・判断力・表現力等を育み探究する力の育成を目指した授業改善を行う。</p> <p>②時代や社会の変化に柔軟に対応でき、未来を考えられる資質・能力の育成のための教育課程の編成に取組む。</p>	<p>①3年経過した現教育課程を振り返り、生徒の主体的な学びが実現していくよう、教科等横断的・探究的な学びを意識した授業改善に取り組む。</p> <p>②令和8年度入学生から変更する教育課程について、その実施に向け、趣旨を職員全体で共有し、生徒の資質・能力育成のための内容の充実を図る。</p>	<p>①研究授業・研究協議会の実施や、教職員同士の授業見学を促進し、協議・見学内容等を職員で共有し、職員全体が組織的に授業改善を行っていく意識を高める。</p> <p>②新教育課程がより充実したものとなるよう、現教育課程の振り返りを行うとともに、職員全体でその趣旨を見直しを行う。選択科目や定期試験、学習評価等に関する議論を様々な機会で行う。</p>	<p>①生徒による授業評価アンケートの結果が改善されたか。職員へのアンケートを行い、教科等横断的・探究的な学びを実現する授業の増加が確認できたか。</p> <p>②教科会やグループ会議等の機会を通じて新教育課程の趣旨を共有する機会を設けることができたか。新教育課程に対応した生徒の科目選択の方法等、具体的な運用方法を構築できたか。</p>	<p>①生徒による授業評価アンケートの結果について、昨年度と比較すると、ほぼすべての科目・項目で「『ほぼ』『かなり』当てはまる」の割合が増え、その中で多くの科目で「かなりあてはまる」の割合も増えた。教員同士の授業見学を行い授業方法・教材の共有を行い授業改善につなげた。探究学習の研修を行い、探究的な学びを意識した授業を推進した。</p> <p>②学校全体でどのような学校を目指すかの共通意識を持ち、令和8年度入学生から教育課程を変更した。</p>	<p>①生徒による授業評価アンケートの結果の改善、さらには授業改善の取り組みがみられたが、個人の努力によるものが大きかったように思える。今後は、学習指導要領で求められる授業、また本校が目指す学校・授業について、共通認識を持ち、より組織として授業改善を進めていく必要がある。</p> <p>②新しくなる教育課程について、その趣旨を職員全体で共通認識を持ちながら学習活動を進め、都度見直しを行い、必要に応じて教育課程の変更を検討していく。</p>	<p>①「学力向上」よりも、「資質・能力の育成」を念頭に置いた授業改善が求められる。不易と流行がある中で、また進路や入試が関わる中で、「なにができるようになるのか」に向かう授業の大切さを改めて強調したい。</p> <p>①探究の授業は多くの学校で困難さもあるかと思う。個人に頼らずに組織として授業改善をしていく工夫が求められる。</p> <p>②英語教育については、勉強としてではなく言葉として捉える国際的な考え方の育成が大切であると考えている。自主性の育成については、制限よりもチャレンジを重視し、失敗を恐れずにリーダーシップを発揮できる環境作りを求める。</p>	<p>①教職員間で授業力向上や探究的な学習の充実に向けた議論が活発に行われ、組織的な授業改善につなげることができた。今後は、個人の取組にとどまらず、学校全体として継続的に改善を図るための仕組みづくりや具体的な手立てを充実させていく必要がある。</p> <p>②令和8年度入学生の教育課程について、生徒に身に付けさせたい力や将来の進路を見据え、学校全体で協議を重ねながら編成することができた。今後は、生徒一人一人が適切に進路選択を行えるよう支援体制を整備し、その成果を踏まえつつ、教育課程の継続的な見直しを行っていくことが重要である。</p>	<p>①授業力向上を目的として、従来とは異なる視点から研修を企画し、より明確な目的意識を持った実践的な研修となるよう工夫していく。</p> <p>②生徒が自ら考え、主体的に進路選択ができるよう、ガイダンス等の内容を充実させるとともに、自発的な学習を促す授業を展開する。併せて、希望進路の実現に向け、本校生徒の実態に応じた教育課程の編成を進めていく。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①生徒の主体性や創造力を育むべく「生徒の自治」を支援し、生徒主体の学校行事や生徒会活動で培った力を学校生活や学習活動で活かせる生徒集団を育成する。</p> <p>②部活動の活性化を図り、安全面に配慮した活動や他者に対する思いやりのある行動ができる力を育成する。</p> <p>③健康や安全に関する学習活動や支援を通じ、生徒がお互いの個性・特性を尊重することで、安心して学校生活を送れる環境を整える。</p>	<p>①生徒が主体的に取り組む学校行事や生徒会活動で培った能力を学校生活や学習活動に生かせる生徒集団を育成し、「生徒の自治」を支援する。</p> <p>②学校生活を安全に安心して過ごせるように環境を整備し、部活動が活性化するような基盤を整える。</p> <p>③健康や安全に関する学習活動や支援を充実させ、お互いに尊重し合える関係性を作り、安心して学校生活を送れるよう努める。</p>	<p>①時代に合ったバランスの取れた学校行事の運営を目指し、生徒会活動を通して生徒の主体性・創造力が育まれるように検討する。</p> <p>②顧問総会や生徒の部長会で安全対策や部室使用についての啓発を行い、重大事故発生防止に努める。</p> <p>③1年次に講演会を行い、登下校時の交通安全、SNSや薬物等への知識、性教育等の充実を図る。教育相談の体制を整え、サポートの必要な生徒に適切な対応ができるように努める。</p>	<p>①各行事のねらいを理解して、生徒が活動することができたか。</p> <p>グループと学年が共通理解を持って、リーダー育成の支援ができたか。</p> <p>②安全対策を理解し、生徒自身が部活動の運営や地域貢献ができる環境の整備ができたか。</p> <p>③講演会の振り返り、SC・SSW等の報告・学年の情報共有を充実することができたか。</p>	<p>①学校行事や生徒会活動を通して、自他を尊重する態度やバランスの取れたリーダーの育成に繋げることができた。</p> <p>②顧問総会や生徒の部長会を通して、傷病予防、熱中症対策、感染症防止対策を充実させ、重大事故発生を防止し、安心、安全に配慮した活動を支援することができた。</p> <p>③交通安全・SNS・薬物・性について等のテーマで講演会を行った。サポートドックを2回実施し、SC・SSWと学年の連携を図った。問題行動未然防止事業の一つとして、ベップ協会の方を講師に迎えて、研修を行った。</p>	<p>①学校行事・生徒会活動を通して生徒の主体性・創造力を育成し、時代に合ったルールの作成や共通理解が得られたバランスの取れた行事運営ができるように見守る体制を整備する。</p> <p>②今後も安全面に配慮した活動の共通理解を持って取り組めるような環境を整備する。</p> <p>③各種講演会をさらに充実させる。サポートドック後に面談を行う時間の十分な確保が課題である。問題行動未然防止事業2年目について、登下校のマナーについては、継続的に指導する必要がある。</p>	<p>①学校行事や生徒会活動を通して、生徒の主体性・創造性、自他を尊重する態度の育成という目標に向けて支援することができた。学業・行事・部活動についてバランスの取れたリーダーの育成につなげることができた。</p> <p>②顧問総会や生徒の部長会を通して、傷病予防、熱中症対策、感染症防止対策を充実させ安全面に配慮した活動や運営を支援することができた。</p> <p>①「大津と言えば行事」のイメージはもちろんあると思う。時代の変化に対応し、陰ながらリーダー育成をしていく必要がある。行事のイメージがある一方で、「進路も見据え」と横須賀総合高校のほうが良い」という意見もある。単位制である横須賀総合高校は、HRクラスの概念がそれほど強くないようにも見えて、全日制普通科でHRクラスがある強みをどう活かすかが大切。</p>	<p>①生徒会執行部および各種委員会の活動を一層活性化させることで、生徒の主体性を高めていきたい。また、地域と連携した行事の在り方についても検討していく必要がある。</p> <p>②定期的に生徒の部長会を開催し、安全対策や施設使用のルールや問題点について共有し、より良い学校生活に向けて支援していきたい。</p> <p>③成果として、各種講演会やサポートドックの実施により、生徒の社会問題への理解が深まるとともに、SC・SSWと連携した支援体制を構築できた。加えて、問題行動未然防止事業の研修を通じ、教員の意識向上も確認できた。今後は、講演内容の充実やサポートドック後の面談時間の確保が課題である。併せて、事業2年目の取組を計画的に進め、登下校時のマナーについて自転車指導を含めた継続的な指導が求められる。</p>	<p>③各講演会では、従来の内容に加え、闇バイトや配信アプリ、DV、大麻使用など、生徒にとって身近になりつつある危険性を取り上げ、社会情勢に即した内容へ継続的に更新していく。また、SC・SSWへの相談については、担任・コーディネーター・SC・SSWが振り返りを行う時間を確保し、支援の充実を図る。併せて、PTAと連携し、登下校時のマナーや自転車のルールに関する指導を一層強化する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①自己の高みを目指した目標設定及びその実現への支援を図る。 ②教育情勢を的確に把握し、適切な情報の収集と周知、共有に努めるとともに、組織的な支援体制を構築する。	①生徒の自己肯定感と学力を高め、「高み」をめざす意識の醸成につなげる。 ②本校の進路支援の在り方を明確にし、共通理解を得るとともに、実現に向けた取り組みを構築する。	①生徒向けガイダンスについて、意識の強化と同時に多くの受験への知識情報を提供するように内容を精選する。あわせて、校内の自習環境を整備する。 ②進路支援につながる学習支援の観点から、3年間の指導の目標設定に利する研修会や講演会を企画する。	①進路希望や学習習慣に向上の変化が見られるか。自習室の利用が増加したか。 ②実効性のある研修会等を実施し、組織的に進路指導・学習指導を行う体制が整ったか。	①進路指導の方針及び具体的な目標を設定し、それに基づくガイダンスを企画、実施した。その結果、生徒の進路希望のレベルが上昇した。また、自習室を全面改良し、生徒の利用が増えた。 ②本校の抱える進路指導の課題を整理し、その改善に向けた教員向けの研修会を段階的に開催した。	①3年間を見通し、ガイダンスや模擬試験、「総合的な探究の時間」を組み込んだ、実効性の高い進路指導計画を整備する。また、学力向上と生徒の進路探究に資する情報提供の環境を改善する。 ②全教職員に対し、進路指導への理解を深め、スキルの向上に有効な研修会等を引き続き計画、実施していく。	①理系進学者の少なさや、三浦半島の地域性に起因する外部への挑戦意欲が育ちにくい傾向が課題として挙げられる。また、生徒が生き生きと輝ける職業を見いだすためには、実体験を通じた職業理解の機会を確保することが重要である。 ①1～3年それぞれの目標を設定し、最終的に高みを目指すアプローチを推奨し段階的な目標設定が重要である。 ②早期の進路意識の醸成が重要であるため、高校入学時から自らの学力状況と進路目標を明確にできるよう、計画的な指導を行う必要がある。	①理系進学希望者への支援については、希望者数の多寡にかかわらず、実効性の高い教育課程の改善、授業改善の一層の推進、補習等による学習支援体制の整備が急務である。今年度中にいずれも提案・着手したが、来年度以降、さらなる改善を進めていく。また、学校としての進路指導方針を明確に定め、職員間での共通理解を図った。 ②進路指導をキャリア教育の一環として位置付け、指導計画および体制の改善に着手した。併せて、進路ガイダンス全般を見直し、外部コンテンツの整理・充実を図った。	①教育課程・補習体制を整備し、進路希望別の交流を通して意識醸成を図るため、2・3学年のクラス編成方針を定める。併せて、段階的・体系的な進路指導を実践するため、学年ごとの一貫した進路指導計画を作成し、教員の指導力向上を目的とした研修を実施する。 ②生徒のみならず、教員および保護者を含めた三者で大学入試に対する共通認識を共有し、進路指導を一体となって推進していく。
4	地域等との協働	①生徒に地域の一員であるという意識を持たせ地域等と協働・交流を行うことで、広い視野を持って何事にも取り組んでいける生徒を育成し、信頼される学校づくりを行う。 ②「いのちを守る」ために主体的に行動する態度の育成を目指した防災教育を実践する。	①会話を通し、相互理解を深め、学校が地域に守られていることを理解する。 ②日常の学校生活の中で機会を捉えて防災について考えさせ、臨機応変に対応する必要性を認識させる。	①地域の防災訓練へ参加することや、橘華祭での地域の方々との交流をすることで、地域に根付いた学校であることを実感する。 ②火災を想定した避難訓練を実施し、教職員及び生徒が、最も適した経路を考え、「いのちを守る」避難をすることを意識する。	①防災訓練で、地域の方々と協力できたか。橘華祭で、活発に挨拶ができたか。 ②避難するまでの経路及び所要時間は妥当であったか。	①橘華祭で、地域の方々と触れ合えた。また、地域の行事に生徒が参加する計画を立てられた。 ②防災訓練は計画に沿って実施できた。防災・減災の必要性の認識については、断続的な指導に留まった。	①地域と協働する防災訓練の在り方を検討していく。 ②校内で実施する避難訓練について、今までの概念にとらわれることなく実施形態の見直しをすると、速戦的な効果が生まれると考える。	①地域の高齢者との交流の価値を強調し、今後の協働のあり方について検討を求めた。多くの地域住民にとっては、異なる世代とのコミュニケーションが生まれるため、とても有意義な機会であると感じている。避難が必要な際に地域の住民を受け入れるための準備も引き続きお願いしたい。	①諏訪神社の御柱祭や大津町内会の餅つきなど、地域行事への協力は行うことができたが、地域と協働した防災訓練の企画・実施には至らなかった。 ②今年度計画していた防災訓練は、確実かつ円滑に実施することができた。今後は、減災への意識をさらに高めるとともに、実際に被災した際に具体的にどのような行動が取れるかを想定した取組が課題である。	①地域の方々と交流できる行事に積極的に参加するとともに、地域と連携した防災訓練の在り方について検討していく。 ②ある程度の被災状況を想定してパターン化し、具体的な行動をイメージしながら防災計画を策定する。併せて、地域において高校生が援助者として主体的に活動する場面も想定し、実践的な防災体制の構築を図る。
5	学校管理 学校運営	①施設、設備等の管理を徹底し、生徒の学習環境をより向上させる。 ②学校全体で校内美化に取り組み、生徒自身に環境整備に参画する意識を持たせる。	①学校目標の「自主自立」を身に付けさせる。 ①広報活動を見直し、情報発信の対象と目的を意識し、本校への理解を深めてもらうための対策を講じる。 ②美化活動、広報活動等を通し、生徒が自主自立の精神を持って学校活動に参画する意識を持たせる。 ③働き方改革の推進を図る。	①「自主自立」を育むため、生徒に活動の意味を考えさせる。 ①中学生及びその保護者に本校の魅力が伝わるように広報活動を見直し、学校案内や紹介スライド等の仕様を変更する。 ②清掃の取り組み方を職員全体で考え、美化意識を高めていく。また、ごみの分別は、掲示物の配布や声掛けを徹底する。 ③働き方改革に向けた業務の精選を図る。	①「自主自立」を身に付けることができたか。 ①魅力が伝わる広報活動が活発になり、学校説明会において、生徒による説明が効果的にできたか。また、興味を引く印刷物等を作成できたか。 ②校内美化のための美化意識を高められたか。またごみの分別の掲示物配付や声掛けが徹底できたか。 ③働き方改革に向けた業務の精選を図れたか。	①様々な機会を捉え、自発的な活動を促した。 ①伝えたい内容とその方法を熟考し、従来から大々的に変更した。また、生徒主体の広報活動も実施した。 ②美化活動をおおして、愛校心や物を大切にする気持ちを育てることができた。 ③働き方改革の重要性を職員間で共有するとともに、オフィス改善事業をおおして職場環境の刷新を図ることができた。	①今後も、あらゆる学校の活動をおおしてその精神を養っていくための働きかけをする。 ②他グループと協力し、美化活動にとどめず学校生活の活性化につながるよう意識づけを行っていく。 ③今後も、業務の見直し、精選、所轄の変更などを積極的に実施していく。	①生徒には教員から見えない能力が隠れていることも往々にしてある。そういう能力を引き出すためにも生徒の協力を得ることはとても大切である。また、生徒の協力を得ている姿が、中学生にとってもよいアピールになるのではないか。 ①「生徒・保護者・家族にとって卒業時にも、卒業後にも「大津サイコー」であるために、学校行事の充実感と進路実現の達成感のどちらを指しているのかを明確にする必要がある。	①伝える内容や方法を見直したことで、今年度の広報活動は一定の成果を上げることができた。一方で、来年度に向けては開催地区の拡大や、生徒の主体的な活動のさらなる充実が課題である。 ②グループ統合により業務量・業務範囲は増大したが、目的意識を共有し協力体制を築くことで、一定の成果を上げることができた。今後は、継続すべき取組と一過性でよい取組を明確にし、業務の効率的な遂行につなげていくことを課題である。 ③働き方改革や時代の変化を踏まえて、生徒指導規定の改訂やグループ業務の見直し等を行うことができた。	①生徒主体の広報活動を一層推進するため、計画段階から生徒の関わり方を工夫し、従来の価値観にとらわれず柔軟に実施していく。 ②校内・対外の両面や継続性・発展性といった多様な視点を意識しつつ、これまで異なる捉え方をしていた取組を整理する。併せて、毎年継続してきた取組についても、その本質的な意義を再確認し、時代の変化に即した内容となっているかを検証していく。

